



企業の課題と挑戦

令和7年6月11日

黒田インターナショナルコンサルティングLLC

黒田 毅

企業は社会との共生を経て、その責任を自己とするものである。これが企業経営の健全性である。

正しい企業倫理性は、企業に正しい現実を与えるものである。

これら企業基盤が、時代という変化に対して、その新しい現実をその企業の哲学と創造性において実現できるのである。

これら優れた企業は必ず善の経営を有するのである。これらは正しい企業基盤が今日の技術革新とともに飛躍を求めることを与えるのである。

企業経営における判断は、これらにおいて正しい市場認識と行動を可能とするものである。

これらは企業経営が利益の追求という主眼を求めるとなく、世界と社会への責任という現実を自己に求めるべきなのである。

これらが高い企業の倫理性であり、社会との正しい関係の育成を実現できるのである。

これらは決して、過去にとどまるものでない。高い倫理的自己は、時代に優れることを行うものなのである。

これら企業の健全性は、競争原理という現実に対しても正しい自己の構築を得ることができるのである。

これら企業の根幹が、拡大し正しい現実を与えるためであり、それらは今日の革命的な変化位に対して、その需要とともに飛躍を有するのである。

これらは、企業努力と結果という正しいバランスを求めるものであり、それら勤労英という現実には健全な企業風土なのである。

